

## 株式会社 テザック (旧社名帝国産業株式会社)

企業紹介



石田 啓介\*, 築田 凌一\*\*

### 1. 会社概要

名称	株式会社 テザック
創業	明治40年
設立	昭和18年9月
資本金	32億5000万円
代表者	取締役社長 寺田和之
従業員	900名
売上高	250億円
所在地	
本社	大阪市北区中之島2丁目2番8号
支店事務所	東京・大阪・津田
営業所	札幌・名古屋・福岡
工場	岸和田・貝塚・泉佐野
製造所	岸和田
開発研究所	岸和田
関連会社	関西ロープ他10数社
事業内容	

ワイヤーロープ、鋼線、PC鋼線、落石防止網柵、緑化製品、麻ロープ、合成繊維ロープ、新素材ロープ、黄麻糸・布・袋、合成樹脂製品糸・布・袋、綿・毛・麻・絹・化合織・混紡糸、面発熱体応用品、住宅関連商品

### 2. 当社のあゆみ

当社は、昭和18年泉州地区の同系4社が合併

\*石田啓介(Keisuke ISHIDA), 株式会社テザック, 技術顧問(元常務取締役), 大阪大学工学部, 冶金学科

\*\*築田凌一(Ryōichi TSUKUDA), 株式会社テザック, FM製造所, 課長, 大阪大学工学部, 冶金学科

をして設立。ロープ製造, 黄麻製品製造, 綿糸綿織物の製造などの各種事業を総合的に行ない, 昭和24年・29年・31年にそれぞれ大阪・東京・名古屋証券取引所に株式上場。ロープ関連では合繊ロープを製造開始する等事業を拡大しながら, 世界最長13,000mのテーパードロープの製造, 本四架橋用のメインワイヤおよびハンガーロープ等各種ロープの製造と, 常に業界のトップを維持。繊維関連では, 金閣40番手を三品取引所に上場。カーペット基布の製造, 黄麻袋が米麦用全面許可になる等事業を拡大。また, 昭和55年の大阪本社・新社屋「テイサン中之島ビル」竣工を契機に体質改善に着手し, 昭和56年に緑化事業, 昭和58年にはFM(機能素材)部門を発足させ, 面発熱体応用品の事業開始新規事業に進出する。設立45周年を迎えた記念すべき昭和63年春からCI活動開始。10月1日より株式会社テザックに社名変更, 新たな可能性を求め大きく飛躍しようとしている。

# TESAC

### 3. 当社の部門紹介

#### 1. ロープ部門

ロープ部門には, ワイヤロープと繊維ロープがある。ワイヤロープは, あらゆる分野で高いシェアを誇っており, エレベーター, スキーリフト, ゴンドラリフトなどに使用されるロープではシェア50%以上。本四夢のかけ橋用としてもメインロープ用ワイヤ, ハンガロープ等多量に納入, 世紀の大事業に大きな貢献をしている。太物ロープの分野では, 世界最大級の大型製鋼機を有し, 海洋開発装置その他で使用されるロープ径200mm製品重量100トンを超える大型ロー

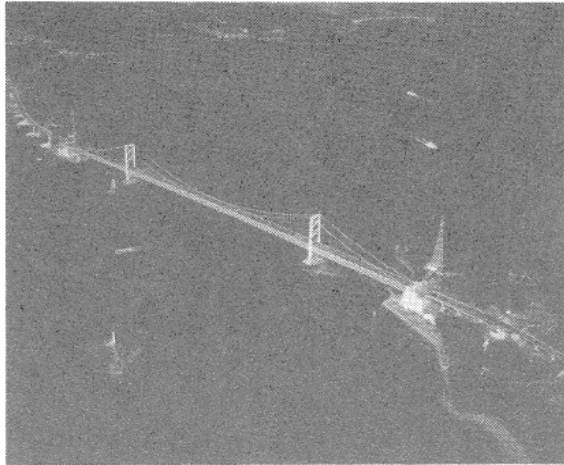


写真1 本州四国連絡橋

プを供給できるメーカーとして世界的に認められている。一方、ミクロン単位の極細ワイヤーの開発にも積極的で、自動車、OA機器、医療機器などに新たな用途の開発を進めている。合成繊維ロープは、船舶、水産業界で幅広く採用され、クロスロープ・ダブルロープ・コンパウンドロープ・エビスクラッドロープ等が需要家から絶大な信頼を受け、業界トップのシェアを確保している。

## 2. 繊維部門

当社の繊維部門も多彩に展開しており、産業用資材から衣料用、ファッション用資材に至るまで、時代のニーズに対応しながら、色々な需要に合致した数多くの商品を開発、各分野に供給している。黄麻製品は、綿花や穀物の梱包用

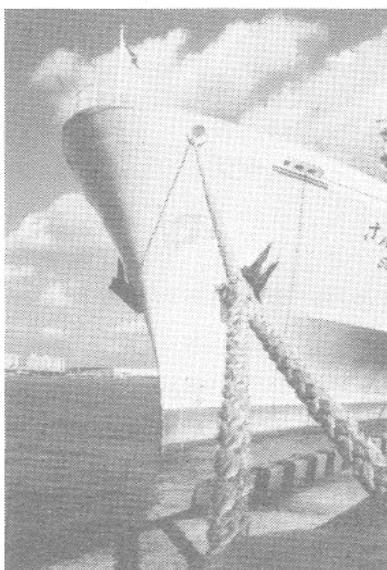


写真2 船舶用ロープ

資材から、農業用バインダー紐、電線用介在糸、ワイヤロープ芯、カーペットの基礎資材まで幅広く、各分野においてトップの地位を確保。合成繊維製品は、P・P、P・Eから作り出される紐、テープ類および布や袋などが、包装関係農業関係、建設分野も含めた広範な用途に使用されている。広巾織物「テバック」がタフテッドカーペット、ニードルパンチ、人工芝などの基布に好評を得ている。衣料繊維製品は、最近のファッションの多様化、個性化の中で、天然繊維に対する需要が高まりつつある傾向に対応綿、麻、羊毛、絹などの天然繊維を主体とした純糸および混紡糸を多方面に供給。エステル、ポリウレタンの芯に天然あるいは合成繊維を完全カバーリングしたCSY糸（2層構造糸）は、優れたストレッチ性が認められ、タイツ、ソックス、水着、カジュアルウェアなど用として多量に使用されている。

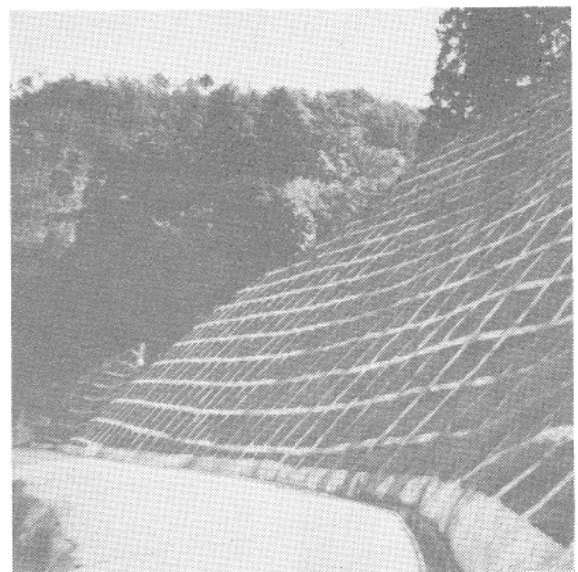


写真3 緑化製品

## 3. FM（機能素材）部門

FM（Functional Material）部門は、機能素材を用いて、種々の複合材を開発し、産業界の新たなニーズに対応する目的で発足した。機能素材として、まず最初に面発熱体を取り上げその応用品の製造販売を行なっている。この面発熱体は、アメリカ・フレックスワット社と技術提携し、当社の技術陣が改良等を加えた画期的な新機能素材で、合成樹脂フィルム等の基材にカーボン系等の半導体材料を用いて、発熱素

## 生産と技術

子をプリントによって形成するユニークなものである。パターン印刷によって設計上のフレキシビリティが発揮できるほか、均一な温度分布を有する等秀れた特性を持つこの面発熱体（国際特許申請中）を用いて、日本で最初の木質住宅床暖房システム、洗面化粧台およびユニットバスの防曇ミラー、OA機器用各種ヒーター部品、レジャー用品等を開発販売している。この面発熱体の電気的基本特性は、下記の通りである。

使用電圧：1.5V～240V

電力密度：1,000W/m<sup>2</sup>（標準）

絶縁抵抗：100MΩ以上（500Vにて測定）  
（常態）

絶縁耐力：1,500V1分以上

さらに、この面発熱体の特性を生かし他の機能

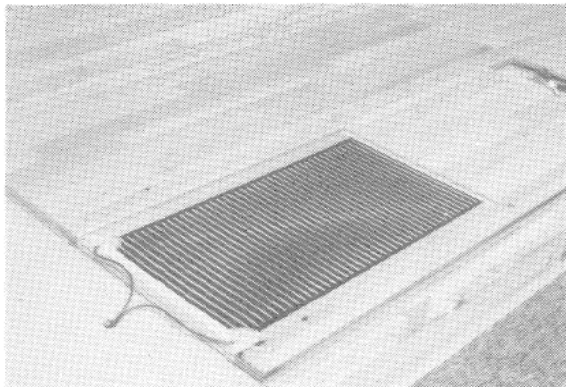


写真4 木質暖房床



写真5 サニタリー防曇ミラー

素材との組み合わせにも取り組んでおり、蓄熱材・遠赤外線放射材料、（例えばセラミック）等との複合商品の開発にも力を注ぎ、近々新しい面発熱体応用品を発表する予定である。またこの面発熱体についての数々のノウハウを生かし、電磁波シールド材等の新しい機能材料を開発すべく、開発研究の準備を進め、近い将来、産業界のニーズに色々な形で対応出来る、バイタリティに富んだ、チャレンジマインドにあふれるアタック部門を目指している。

## 4. 開発研究所

当社の製品は、業界をリードする高品質材料として高い評価を受けている。しかし、技術革新のテンポも早く、産業界のニーズも日一日と高度化しつつある現状の中、従来商品については、各既存部門で、高機能化等を推進している。一方、当社の開発研究所では、新商品の開発に重点を置いて種々研究を行なっている。樹脂と繊維との複合材は、重点研究課題の一つで、高強力低伸度繊維（アラミド・炭素繊維等）と樹脂との複合化の研究成果として、「タフエクセル」・「タフエクセルグリップ」という商品名で販売を開始している。前者は、繊維と樹脂を複合化した細物コードであり、後者は、さらにこのコードを編組みして製造したものである。一方、海外技術の導入にも積極的に取り組んでおり、フィンランドのJ.W.スオミネン社の技術による「サンレース」という商品名の不織布の販売を開始した。さらに、デンマークのダナクロン社からの技術導入による、全く新しいタイプのセメント強化用ポリプロピレン繊維を「タフライト」という商品名で販売を開始した。この「タフライト」は、断面が扁平で特殊表面処理が施され、多数の毛羽を有し、セメント製品の性能を大巾に向上させることが出来るので、アスベストやその他の無機・有機材料の代替品として大きな注目を集めている。

## 4. あとがき

当社は、45周年の記念すべき年の社名変更を

機に、伝統に培われ激動の時代にみがかれた技術と、産業界のニーズを確かに見極める目をもって、各種産業資材の高機能化を次々と推進すると共に、関西新空港の建設に伴う新規事業分

野へも積極的に進出し、国際的な視野を持つグローバルな企業を目指して努力を続けております。

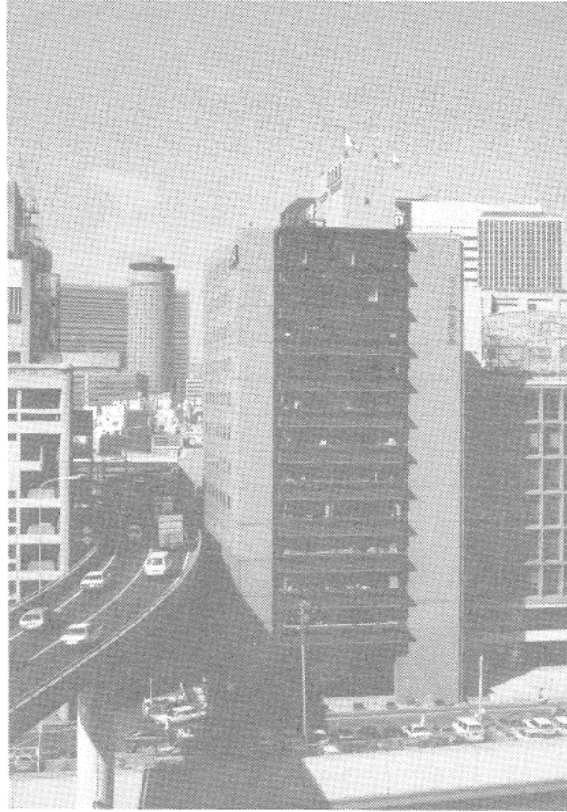


写真6 本社ビル